生駒山

名古屋星ヶ丘の自宅階段から、瀬戸「海上の森」、遠くに雪景色の木曽の山々を眺めることができた。このような山景色は、大阪に転居してからは眺められないと諦めていた。ところが自宅ベランダから、なんと南東の方向に生駒山地が見えるではないか。日の出もこの山並から昇ってくる。『おおさか四季山歩』2015 年から、生駒山を紹介しよう。

人間に例えるなら、生駒山はもう満身創痍である。頭には 10 基近いテレビ塔や電波塔に遊園地、背中にはケーブルカー、肩にはドライブウエイ、腹には 4 本のトンネル、足元には群がるアリのような住宅街。これほど俗化された山がいったい全国にあるだろうか。神戸の六甲山もカブトを脱ぐだろう。

生駒山は奈良県と大阪府との境界に位置する生駒山地の主峰で、一帯は金剛生駒紀泉国定公園だ。標高 642m。侵食に耐えた堅い閃緑岩からなるドーム状の残丘で山頂は平坦。大阪側は急傾面、奈良側はゆるやかだ。山頂には大阪府内では数少ない 1 等三角点がある。その場所は山上遊園地のミニ SL が走る横にあるのがおもしろい。

生駒山は古くから文献に登場し、『日本書紀』では胆駒が、『万葉集』では射駒山などの名で知られていた。生駒山と人間との付き合いは太古にさかのぼる、その昔、山の東側、すなわち大阪側は海だった。わずかに今の上町台地が岬のように突き出していた。海辺の住人はさながら屏風のように連なる生駒の峰をながめ、そこから昇る陽を畏怖した。神武天皇の東征神話では、難波から生駒山を越えて大和に入ろうとしたが、麓の先住民の抵抗にあい、やむなく熊野回りで大和に入ったと伝えている。

生駒山の名の起こりは、山の稜線が馬の背中に似ているから、山の草を食べた馬が元気になったから、‥‥など諸説あるが決め手はないそうだ。江戸時代の 1678 年（延宝 6)、奈良県側中腹の般若窟の下に「生駒聖天」と呼ばれている宝山寺が創建され庶民の信仰を集め、山は賑わった。また、大阪からお伊勢参りに向かう旅人は必ず生駒山の暗峠を越えた。最盛期には狭い峠に 14 軒の茶屋が軒を並べていたという。1694 年（元禄 7）松尾芭蕉は重陽の節句（9 月 9 日）のとき、奈良から峠を越え、「菊の香に 暗越える 節句かな」と詠んだ。大阪の弟子宅に着いて病にかかり、1 カ月後に生涯を閉じた。明治以降の日本の近代化とともに生駒山は一気に俗化した。ケーブルカーが架設されたのは日本初で、1918 年（大正 7）に鳥居前―宝山寺間が開通した。1914 年（大正 3）に開通した生駒トンネルも日本初の複線トンネルだった。

（2018 年 1 月 14 日）